

オートGPSとIMES屋内測位による広域観光の動態把握と回遊誘発情報提供システム

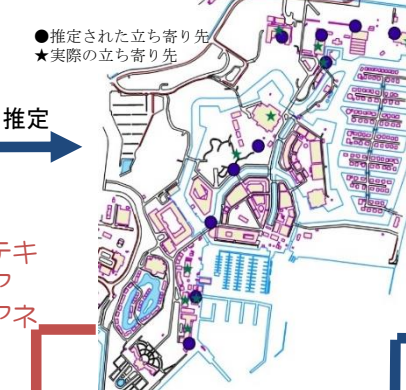
研究代表者: 斎藤参郎(福岡大学) 研究機関: 平成24年度~平成25年度

終了報告書(平成25年度終了課題) 様式4

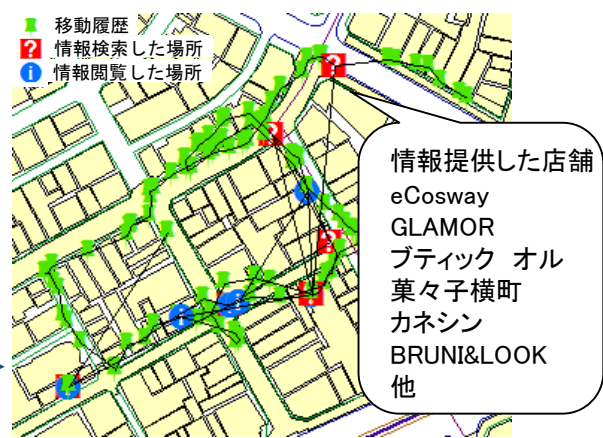
GPSログ(ハウステンボス)



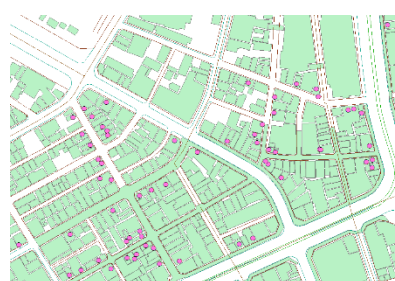
GPSログからの立ち寄り場所の推定(ハウステンボス)



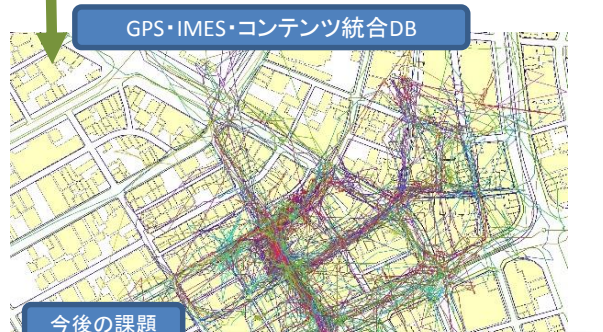
ユーザの情報選択マイクロデータ(天文館)



IMES設置店舗情報(67カ所)



店舗による提供情報コンテンツ
天文館セールチラシ



店舗情報、提供情報、ユーザの情報選択などのマイクロな意思決定に関するrichなビッグデータを、ユーザの情報評価関数の定式化と推定に利用し、リアルタイムでユーザと最適に相互作用する手続きをアルゴリズムとして実現していく。

●研究開発の目的
広域からの観光集客と九州内での広域観光回遊の動態を、オートGPSとIMES屋内測位を活用し、(1)どのような観光客がどこから何人九州を訪れ、九州域内や代表的観光地内でのどのような回遊行動をしているかを把握するとともに、(2)位置情報から行動目的や個人属性などを推定し、(3)観光回遊の誘発にもっとも効果的な情報提供の在り方を検証できるシステムを開発する。

●研究成果と今後の課題
(1)GPS、IMES、準天頂衛星みちびき(QZSS)、WiFiによる位置情報の同時測位を行った。(2)位置情報に応じてランダムに情報を提供するサーバーシステム、Androidアプリを作成した。(3)GPS・IMESログデータのみからユーザの立ち寄り場所の推定方式を開発した。(4)鹿児島市天文館地区において、商店街の個店にIMES67台を設置し、社会実験を行った。IMESをこのようにまちに大規模に配置したこと、GPS、IMES、WiFiを同時に測位するAndroidアプリを開発したことは世界初の試みである。
今後の課題としては、GPS・IMES・コンテンツ統合DBは、提供情報、店舗情報、ユーザの情報選択、行動選択などの深いマイクロな意思決定に関するrichなビッグデータとなっており、これを利用してリアルタイムでユーザと最適に相互作用する仕組みをどのようなアルゴリズムで実現していくかを考えていく。